

# あおい空 じろい雲

長野県手をつなぐ育成会ニュース

平成26年1月14日発行  
発行者 長野県手をつなぐ育成会  
会長 中村 彰  
380-0928 長野市若里7-1-7  
長野県社会福祉総合センター5F  
TEL 026-227-6811  
FAX 026-227-6836  
ikuseikai-nagano@cyber.ocn.ne.jp

謹賀新年  
今年もよろしくお祈りします。

## 育成会の年会費を考える

平成25年度総会において育成会会費に関する意見が出され正副会長会でも、会議の中で何度か話し合いました。

各郡市会、それぞれの市町村会でも育成会の活動の意義は認識していながらも活動を支える資金財源の確保には頭を悩ませる問題です。

また、会員の高齢化・若い世代の育成会加入が進まない現状も活動の根幹を支える人材育成の面での大きな問題点として重くのしかかってきています。

正副会長会での話し合いの結果は以下の通りです。

### 現行

行政区の人口 × 1円 + 3,000円 (平成25年度 収入実績 210万円)



### 変更案

会員数 × 1,000円 (平成26年度 収入見込 250万円)

### 変更案の提案理由とお願い

平成25年度50周年記念事業で作成した記念誌を配布する際に各市町村の育成会員数を聞き取りました。会員数に応じた会費徴収法は各市町村会の会員実績に見合った徴収方法となり公平さに不足無しと考えました。

今日までの各市町村会の多くの実績を残してきた長い歴史は、長野県手をつなぐ育成会の社会貢献の根源です。会費に関しては皆さん多くのご意見があると思います。

正副会長会の案を出しましたが、皆様からのご意見を県事務局へお寄せ下さい。

# 平成25年度 研修会報告

## 中南信地区会場

塩尻市 塩尻総合文化センター

平成25年11月16日(土)

講演「障害者本人の意思の決定支援と人権の尊重」

講師 北澤 克己 氏

(上伊那圏域障害者総合支援センター 発達障害サポートマネージャー)



発達障害の定義に始まり障がい者の意思決定を支援するために必要な課題から虐待の定義と人権尊重について解られました。

午後からのパネルディスカッションは高齢期の支援の課題、地域資源を活用した地域生活、グループホームの実態について話しあいました。現実問題として終末期の不足する支援と介護保険制度下の施設利用の難しさがあります。

本人にとって最良の老後を実現するために小規模の施設の法人として何が出来るのか、今後の育成会活動の大きな課題です。



## 長野県手をつなぐ育成会 臨時総会のご案内

日時 平成26年1月25日 13時から

場所 長野県社会福祉総合センター

代議員の皆様のご出席をお願い申し上げます。

## 2地区会場で行われた 講演の主な内容です



### 東北信長野地区会場

御代田町 エコールみよた

平成 25 年 11 月 23 日 (土)

講演「障害者が生涯にわたり地域でより良い生活を築いていくために」

講師 竹内 延彦 氏 (長野県企画部企画幹)

『私は3年前阿部知事の知事部局下に設置された「次世代サポート課」の職員として民間から採用された人間です。「次世代サポート」の名前どおり「長野県のすべての子どもと若者を一人残さず支援したい」という阿部知事の強い意志のもと平成23年に設置された課です。

私は東京で不登校の子供たちを支援してきた経緯があり私の経験がこの長野の地で生かされるよう日々県下各地を行脚しています。

とかく行政は縦割りで融通の利かない組織です。そんな現実を何とか改善しようと日々県下各地の県民の皆さんとお会いし話を聞き政策として実現したいと思っています。中でも力を注ぎ活動実績を上げている「ぷれジョブ」は県下各地で展開され、携わった県民の心を動かし有意義な活動になっています。

私自身の仕事はまだまだ発展途上ですが確実な政策へとつながっていくように、今後も県民の皆様と共に行動していきたいと考えています。』

地域での暮らしを支えるのは文字通り地域であること、そのために個々に何ができるのか考えさせられました。

午後からのパネルディスカッションでは相談員制度の有効な活用法を、相談員、保護者、行政の立場から話し合いました。



# コヒム タイム

## わたしたちの育成会

### 長野地区療育キャンプ報告



平成25年10月12日～13日 飯縄高原 アゼリアにて

今年のキャンプは初めての試みで山岳ボランティア「山楽会」の皆さんの絶大なるご協力により、今までに無い本格的なキャンプとなりました。ボランティアで参加した信州大学学生の西原未優さんからの感想をご紹介します。



「私は、今年で三回目の参加だったのですが、今回もキャンプをとっても楽しみにしていました。今年は山楽会のボランティアの方々にも来ていただいて、一緒に活動することができました。

クラフトでは、私たちが考えていた以上に子どもたちが一人一人集中して、様々な大きさや形の木を使って工夫した作品を作っていました。子どもの一生懸命な顔、学生や山楽会の方と一緒にあって取り組む姿を見ることができ、本当にうれしかったです。キャンプ

ファイヤーやレクリエーションでも子どもの生き生きとした姿を見ることができました。様々な遊びを一緒に楽しむことができ、子どもたちと行う活動にはいろいろな可能性があるのだと感じることができました。

あっという間に過ぎてしまい寂しくも感じましたが、子どもと一緒にあって心から楽しめたキャンプでした。多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。」

## 編集後記

昨年末、千葉県で起きた「袖ヶ浦福祉センター養育園」での暴行・死亡事件は皆さんの心に大きくのしかかったことだと思います。

「支援がうまくいかず暴力に頼った」加害職員の言葉です。研修会でも学んだ通り支援の陰に隠れた「指導と虐待の見極め」は福祉現場のプロとしての一層の自覚と学びが必要な事例として心に刻まなければならない事件の一つです。

私たちの悲しい記憶がこれ以上刻まれることの無いように願ってやみません。